

◆開会挨拶

太平洋人材交流センター 会長 井上 義國

本日はPREX設立15周年記念国際シンポジウムにお越しいただきありがとうございます。

設立後15年が経ちましたが、その間に政府関係機関、民間企業、経済団体、自治体、大学など、関係先から多大なご支援をいただきましたことに、厚く御礼申し上げます。とくに関西の企業からは、多大な基金を頂いたばかりか、15年間、多数の職員も派遣していただきまして、それがPREXを支えてまいりました。改めてお礼申し上げます。

15年間、先ほどのDVDにありましたように、世界の情勢は、どんどん変わってまいりました。東南アジア1つを見ましても、シンガポールは援助される国から援助する国へ変わりましたし、近年の中国の経済発展、あるいはマレーシア、タイ、フィリピン等の経済発展など、15年前とは見違えるばかりです。それに伴いまして、途上国からのPREXに対する要望も、どんどん変わってまいりました。PREX自身が、どんどん変わっていかなければ、途上国の要望には応えられないというのが、現状です。

一昨年からPREXも、中期アクションプランというものをつくりまして、どうすれば途上国の要望に応えられるか、皆さんの期待に応えられる機関になり得るかということで、いろんなテーマに取り組んできました。

遠隔研修はPREXが先鞭をつけたわけですが、これもAOTS、JICA等の機関が専用回線をつくられたことによって、費用も安く多くの方々が遠隔研修を受けられることになりまして、軌道に乗ってきました。また、政府関係機関から委託された事業を実施するということだけではなくて、PREX自身が途上国の要望を探り、それを企画、提案するという事業も増やしていく努力をしてきてまして、一昨年、昨年はPREXがやりました事業のうち、30%が企画提案型事業で占められています。こういった工夫は、今後とも、続けていかなければならないものだと考えています。

また、シニア世代の方々にも協力いただいております。先ほどDVDに出てきました西村さんの他にシニア専門家を、いま60人、登録いただいております。これまで蓄積された経験なり、ノウハウなりを生かして、色々なテーマについてシニア専門家の方々が講師として途上国の方にいろんなことをトランスファーしていくことをやっています。この事業の充実も今後も進めていきたいと考えています。

人という字が、PREXのシンボル・マークですが、それは人材の育成だけではなくて、関西とアジアとの人の交流を活発にしていきたいという願いがありまして、この人という字がシンボル・マークに使われています。PREXで研修を受けられた方々が、15年間に約8,000人いますが、各地で同窓会をつくりまして、その人脈を延々と末永く続けていきたいということで、PREXの同窓会の維持にも努力をしていますし、これまでの蓄積をしてきた方々の人脈というのは、今もPREXの研修の中に生きています。今後ともまた、それを生かしていかなければならないと考えております。

今日のシンポジウムは「関西とアジアとのつきあい」ということをテーマに、基調講演は、立命館アジア太平洋大学のモンテ・カセム学長と、前の大阪全権大使の神長さんをお願いをしています。パネル・ディカッションは、このお二人の方の他に大阪大学大学院の高阪先生にコーディネーターをお願いし、小川AOTS理事長、PREXのタイ同窓会会長のボーンセークさん、フィリピンのPREX同窓会のガンボア会長をお願いし、実りあるお話が承れるのではないかと期待いたしております。

皆様、どうぞ最後までお付き合い願いたいと思います。簡単でございますが、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。